

○ 背景と目的

- ・海外のスマートシティ事業について、先進事例である北米地域、将来的に日本企業の進出可能性のあるアジア地域、サブサハラ・アフリカ地域、北アフリカ・中東地域から都市を選定
- ・選定された都市について、スマートシティに至る背景や、進捗状況、技術コンテンツの導入状況、国内外の企業の動向等について整理

○ 調査結果

都市	プロジェクト名	概要	計画進捗状況	
北米	コロンバス	SMART Columbus	米国の運輸省（Department of Transportation：DOT）が実施した「Smart City Challenge」で優勝し、5,000万ドルの助成金を獲得してプロジェクトがスタートした。自動運転等が行われている。	完了
	サンノゼ	City of San Jose	市が、「San Joes Smart City Vision」を策定し、「実演都市」として、自動運転などをテストする交通イノベーションゾーンを作る等の方向性が示された。	進行中
	デンバー	Peña Station NEXT	デンバー国際空港に近接した地域で鉄道駅を中心に、公共交通指向型のスマートシティを開発中、Fujisawaサスティナブル・スマートタウンをモデルとする。	進行中
	オーランド	Lake Nona	オーランド国際空港の南東に位置し、面積は44km ² であり、住宅・学校・企業等が立地している。自動運転の規模も多く、北米では最も古くから行われている。	進行中
ダッカ (バングラデシュ)	Bangladesh Special Economic Zone※	バングラデシュ経済特区内での工業団地整備において、工業団地のスマート化・デジタル化に向けた取組があり、日本企業からの投資等が行われている。	進行中	
ケープタウン (南アフリカ)	Century City	ケープタウン中心部から約10kmに位置し、Webを用いた域内交通情報配信が実施されていることや、ネットワーク環境の整備、街頭カメラによるモニタリングに向けた取組が行われている。	進行中	
ナイロビ (ケニア)	Konza Technopolis	ナイロビの市街地から離れた経済特区内で、スマートシティエリア内のICT製品・サービスの開発促進等がなされ、中国企業の参画、韓国による建設資金支援がある。	進行中	
カイロ (エジプト)	New Administrative Capital (新行政首都)	既存の市街地とは別の場所で、高度交通システムや建物のスマート化、エリア内のインフラ管理の最適化がなされ、フランス企業や中国企業等の参画がある。	進行中	
アブダビ市 (アラブ首長国連邦・ アブダビ首長国)	Masdar City	太陽光パネル等のエネルギーインフラや、電動モビリティ、環境に配慮した建築物の整備が主になされ、マスタープランにイギリス企業、プロジェクト主体の企業本社設計にアメリカ企業が関わっている。	進行中	

※スマートシティプロジェクトとして進められているものではないが、デジタル化などの取組が個別に見受けられたため、調査を実施した。